

石垣島を中心とする沖縄県八重山群島で育ったブランド牛「石垣牛」の人氣が過熱している。新石垣空港（石垣市）の開港で観光客が急増し、島内での需要が旺盛。県外への出荷がストップするほどだ。産地では地産地消に軸足を置きつつ、安定した流通量を確保する取り組みを急ぐ。

「島を代表する食材だ

食材最前線

がここまで需要が増えるとは思わなかった。予想以上の増加だ。JA石垣牛肥育部会の仲大盛吉幸部会長は驚きを隠さない。今年3月の新空港開港で同島への観光客数は今年、前年よりも2割ほど増えた。本土から格安航空会社（LCC）も乗り入れし、「交通費が浮いた分が食に回った」（仲大盛さん）。

沖縄県八重山群島

「石垣牛」

ブランドを育てる



放牧で育ち足腰のしっかりした牛が多い石垣牛

島内には昨年よりも2割多い約600頭の石垣牛が育てられ、島外に出荷する牛が盛んだった。ただでも供給が追いつかない。品不足を受けて毎週島内で開催されるセリでは、最高ランクのA5等級が1頭2千円台後半まで2割近く上昇。各地のブランド牛が集まる東京食肉市場のA5等級の平均を大きく上回る。12月に入ってからは3千円を超えるケースもあり、松阪牛に劣らない水準だ。もともと石垣牛は地産地消を重視したブランド

島内には昨年よりも2割多い約600頭の石垣牛が育てられ、島外に出荷する牛が盛んだった。ただでも供給が追いつかない。品不足を受けて毎週島内で開催されるセリでは、最高ランクのA5等級が1頭2千円台後半まで2割近く上昇。各地のブランド牛が集まる東京食肉市場のA5等級の平均を大きく上回る。12月に入ってからは3千円を超えるケースもあり、松阪牛に劣らない水準だ。もともと石垣牛は地産地消を重視したブランド

観光客に人気、安定供給急務

さん」とされる。2000年の沖縄サミットで各国首脳に提供されたことを契機に全国的に知名度が向上した。

需要が急増した一方で、今年の供給頭数は昨年に比べて100頭ほど減った。肥育牛を出荷していた島内の畜産公社が廃止されたことや、全国的な子牛の取引価格の高騰が影響している。同島内には700〜800頭の繁殖農家がいるが、セリでは県外の農家との取り合いになり、石垣牛として肥育用に島内に残る牛が増えない。

10年からは首都圏への出荷が本格的に始まった。ただ今年からは島の目と鼻の先は台湾で内への供給が精いっぱい出荷が止まっている。首都圏で石垣牛の販売に取組んできた食肉卸ミートコンパニオン（東京都立川市）の植村光一郎常務は「ブランドとしての力は十分にあり、出荷

が再開されれば引き合いは戻ること話す。ただ「島全体で目先の利益にとらわれない生産と流通の仕組みづくりが急務」と指摘する。

新空港の開港効果が一年に比べて100頭ほど減れば、観光客向けの需要が落ちていくことも考えられる。仲大盛さんたちは、大手の繁殖農家の連携を強化するなどして3年後をメドに石垣牛の出荷を1千頭まで増やす目標だが、供給過剰に陥らないためには、島外にも安定した販路が必要になる。

来年3月には、海外輸出にも対応した食肉セクターが完成する予定だ。島の目と鼻の先は台湾でアジアの市場が広がる。本土からの遠さが逆に武器になるかもしれない。

業務用食材の価格と予想

(先週金曜時点・円、矢印は今週の予想)		
(卸間、玄米、1等、60kg、2013年産)	→	
(新潟、一般)	15200	→
まち(秋田)	13400	→
7(北海道)	13400	→
(大田市場、相対、税込み、1kg、高値)	2100	↗
(愛知、10kg)	2100	↗
<食肉>(1kg).....		
国産牛枝肉(和牛去勢A4、芝浦市場、加重平均価格)	1911	↗
〃(和牛去勢A5、同)	2258	↗
〃(交雑種去勢B3、同)	1313	→
国産豚枝肉(生体・上物、同)	554	↗
国産プロイラー		
(もも肉、東京荷受け7社売値、同)	701	→
鶏卵(荷受け、全農たまごM、同)	280	→
輸入牛肉		
(米国産ショートプレート、冷凍、同)	580-590	→